

「地震に強い家づくり」

繰り返される地震に備えるには...

愛 媛 奈 斤 局

(第3期 最新情報)



全国地震動予測地図 今後30年間で震度6弱以上などの強い地震が起こる確率を全国規模で示した地図。発生間隔の長い内陸の活断層型地震と、プレート(岩板)の沈み込みに伴う海溝型地震を個別に評価した結果を組み合わせ、政府の地震調査委員会が日本全国の地図として作製する。住民の防災意識の向上に役立てるのが目的で、2005年に初めて公表した。11年の東日本大震災を受け計算手法を見直すなど、最新の科学的知見を反映させ、これまで今回を含め9回改訂している。

16年全国地震動予測

南海トラフ付近上昇

今後30年間で松山44%に震度6弱以上

政府の地震調査委員会は10日、今後30年間で震度6弱以上の揺れに見舞われる確率を示した「全国地震動予測地図」の2016年版を公開した。南海トラフ地震で影響を受ける静岡県から四国にかけての太平洋側の地域で、前回14年版に比べて確率が上昇、関東地域の一部でも80%超と高い状態を維持した。震度6弱では、耐震性の低い建物が倒壊することがある。

確率が上昇したのは、太いから安全だと思われがちで、市で7%と、いずれも前回は1%だった。松山市は2倍上昇し44%となった。松山市では首都圏下地震や、出雲川から房総半島中に延びる相模トラフで起きる海溝型地震の影響で、水戸市で81%、千葉市で78%、横浜市で81%など、関東圏は概ね80%以上と、前回は70%前後だった。松山市は2倍上昇し44%となった。松山市では首都圏下地震や、出雲川から房総半島中に延びる相模トラフで起きる海溝型地震の影響で、水戸市で81%、千葉市で78%、横浜市で81%など、関東圏は概ね80%以上と、前回は70%前後だった。

松山市は2倍上昇し44%となった。松山市では首都圏下地震や、出雲川から房総半島中に延びる相模トラフで起きる海溝型地震の影響で、水戸市で81%、千葉市で78%、横浜市で81%など、関東圏は概ね80%以上と、前回は70%前後だった。

目次

- 1、耐震とは？
- 2、耐震のための金物
- 3、熊本地震の被害①
- 4、耐力壁
- 5、熊本地震の被害②
- 6、制震



(株)石川工務店